



私とそろばん

会社員 佐野 満昭

私がそろばんを習い始めたのは、小学2年生の夏です。きっかけは、一番仲の良い友だちがそろばん塾に通い始め、放課後一緒に遊べない日が多くなって寂しかったこと、そして同じ時期に他の友だちも一斉にそろばんを始めることになったからでした。

当時、友だち5人で一斉に通い始めたそろばん塾でしたが、日を迫うごとに辞めていく友だちが増え、1年経たずして残ったのは私一人になってしまいました。しかし、その頃にはすっかりそろばんの魅力にハマっており、辞めたいと思ったことは一度もありませんでした。

そろばんの魅力は、「検定試験に合格して、どんどん昇級・昇段できること」「問題のレベルが上がり、種目も増えて常に新しいチャレンジができること」、そして「計算・解答の繰り返しにより、自分の成果が点数として明確にわかること」にあると思います。

そして何より、私がそろばんに熱中した最大の要因は、競技大会に出場するようになったことです。初めて競技大会に出場した時のことは、今でも鮮明に覚えています。中高生のお兄さんお姉さんが多数参加し、ものすごい集中力で練習していたこと。読上暗算や読上算など、それまで経験したことのない種目があり、訳も分からずに必死に計算したこと。さらには、入賞者には大きなトロフィーや立派な賞状が授与される光景を目の当たりにし、「自分もいつか優勝したい」と強く思うようになりました。それからは日々、検定試験の合格と大会での上位入賞を目標に、ますますそろばんの魅力にのめり込んでいきました。

競技大会で上位に入賞できるようになると、さらに上のステージである大きなエリアの大会に出場できるようになりました。私の地元である北海道の道央地区は、全国的にもトップクラスの選手を多数輩出している地域です。大きな大会に行くと、ハチマキを巻いて朝早くから会場で気合を入れて練習する姿や、ものすごい桁数・スピードの

読み上げ種目に正確に答えていく様子を見て、心の底から驚かされました。「やっぱり上には上がいるものだ」と感心し、それが自分の練習に一層の拍車をかけました。

「数字に強くなる」ということはよく言われますが、そろばんの大きな効能の一つは、気づいた時には頭の中にそろばんの珠が浮かぶようになることでしょう。あらゆる数字が、自然とそろばんの珠として認識されるようになりました。それからは、街の至る所にある数字（電話番号や車のナンバープレートなど）を見ると、無意識に頭の中で足したり引いたりしている自分に気づきます。これはそろばん経験者ならではの、ある種特異な、そして誇らしい感覚ではないでしょうか。

最近では、そろばん塾に通う子どもが少なくなっているという話も耳にします。しかし、テレビやインターネットでは、今なお競技大会で競い合う達人たちの様子や、フラッシュ暗算に挑む子どもたちの姿が紹介されています。それを目にして気になり、時々、しまってあったそろばんを出してパチパチとはじいてみるのですが、さすがに指はもう思うようには動きません。しかし、スマートフォンのフラッシュ暗算アプリを見つけて挑戦してみたところ、意外と高いレベルの問題にも正解することができました。指は動かなくなっても、頭の中にはしっかりとそろばんの珠が浮かんでおり、私の暗算力はまだ衰えていなかったのだと驚かされました。たまに自分の子どもたちの前でフラッシュ暗算に挑戦し、見事正解して「パパすごい！」と言われると、何とも誇らしい気持ちになります。我が家の子どもたちも小学校高学年と幼稚園児ですが、今からでも決して遅くはないので、そろばんに触れて暗算力や集中力を養ってくれたらいいなと思っています。そして、いつか私も昔のようにそろばんを手に取り、子どもたちと一緒に競技大会に出場できたら——これ以上の幸せはありません。